

### 第3回福島駅周辺まちづくり検討会 会議録

- 1 日 時 令和6年4月23日(火) 14:00~15:30
- 2 場 所 キョウワグループ・テルサホール 3階 あぶくま
- 3 出席者 委員11名  
小林 敬一 委員長、西田奈保子 副委員長  
坪井 大雄 委員、大和田 諒 委員、紙谷 瑞恵 委員、中野 義久 委員、  
穴戸 路枝 委員、鈴木 深雪 委員、石川 文雄 委員、江川 純子 委員、  
瓶子 莉奈 委員
- 4 欠席者 委員1名  
追分 拓哉 委員
- 5 内 容  
(1) 市長あいさつ  
(2) 確認事項  
○ 第2回検討会等の主な意見について  
(3) 意見交換  
○ コンベンションホール単独案の場合の肉づけ案  
(コンセプト・イメージ)  
(4) その他
- 6 概 要 確認事項等について事務局説明後、質疑応答、意見交換
7. 会議詳細  
(1) 市長あいさつ  
本日は、お忙しい中お集まりをいただき感謝。  
まず、簡単にこれまでの流れをおさらいさせていただきたいと思う。  
委員の皆様には、1回目、2回目で活発にご意見をいただき、2回目の終わりの段階で、東口再開  
発の市施設については、コンベンションホール単独案の方向性で概ね一致をいただいた。  
今回は、どのような肉づけができるか、コンベンションホール単独案の場合のたたき台をお示し  
して、コンベンション単独案の検討を深めていただくところである。  
肉づけ案の作成にあたっては、検討会での意見に加え、市議会や市民の皆さんからの意見もできる  
限り取り入れて作成した。  
その内容については、後程、担当者からご説明しますが、私からポイントをご説明させていただき  
たいと思う。  
委員の皆さんから評価いただいたのは、可変性があることで多様な使い方ができることが良いという点

と、まちに開かれ、まちとのつながりができることが良いという点であり、これを重視して作成した。

そして、市施設をコンベンションベースに絞ったことから、再開発全体のコンセプトもこれまで以上により明確にイメージしやすくなり、にぎわい・文化・つながりが生まれる《たまご》、「FUKUSHIMA EGG」といったコンセプトで取り組めるのではないかと考えている。

コンベンション施設というよりは、多様なにぎわいや文化、つながりが生まれ、ワクワクする未来が広がる創造の場、新たな福島のシンボルと位置付けられるようなものになるのではないかと考えている。

この場からは、にぎわい・文化・つながりが生まれる12のシーン・場面、より詳しく申し上げれば、15の多様なシーンが期待できる。

そして、今回お示しする施設設備面の工夫が、にぎわいや文化、つながりをより効果的に生み出すことになるものと考えている。

さらに、このようなシーンが、全体的にどのようなようになるかというようなイメージも今回付け加えさせていただいている。

この案については、あくまでも、現時点における市の方針ではなく、コンベンション施設をベースとしたときに、どのような肉づけができるのか、議論を深めるための材料となるもの。

しかし、私どもとしては、皆さんから中途半端でこれをやっても仕方がないなどと判断されないように、むしろ、東口再開発に希望を持っていただけるように、それなりに熟を込めて考えてみた。

皆さんの議論の前に勝手に感想を述べるのは甚だ失礼ではあるが、コンベンション単独とすれば、グレードの高い音楽などは困難になるが、これまでのハイブリッド案と比べた場合、若者受けするような新鮮味のある多様なシーンが生み出せる。また、これまでは3、4階に配置するため、まちとのつながりが薄いのに対して、今回は平土間を1階に設置する関係上、ダイレクトにまちとつながって、相乗効果を生み出せることは、特にまちのにぎわいづくりに関しては、現行計画以上のインパクトを持つことができるのではないかなと感じている。

また今回は、前回お話があった、何のための駅前の活性化なのかという問いへの考え方も整理した。

委員の皆様には、今回のたたき台、議論のための材料をもとに、活発なご意見、ご議論をお願いしたい。

## (2) 確認事項

### ○第2回検討会等の主な意見について

事務局で資料1、参考資料1、参考資料2、参考資料3を説明後、質疑応答

質問なし

## (3) 意見交換

### ○コンベンションホール単独案の場合の肉づけ案

(コンセプト・イメージ)

事務局で資料2を説明後、質疑応答

## 委員長

それでは、意見交換に移りたいと思う。

まずこれまでの議論の流れを整理していただいた。

そして、新たに出された資料の中で、実現したいシーン、それからコンセプト、それを実現するための手立てなどについてご説明があった。

これらは、コンベンションホール単独型の場合の肉づけ案として出されているが、この諸提案に対して皆さんのようなご感想をお持ちか、あるいはご意見をお持ちか、ご発言ください。

また、こういったものが、これからの中心市街地のまちづくりにどのような関わりを持って、どう展開していくことになるのか等も含めて、ご意見等をいただけたらと思う。

## 委員

まず質問ですが、ご説明いただいた資料2のコンセプト案について、資料16ページのシーン7には、民間エリアの物産館というアイデアが入っている。また、22ページのシーン11には、オフィスエリアの中にインキュベーション施設というアイデアが入っているが、こういった物産館だとかインキュベーション施設というのは、よくあるタイプでいうと、公共が床を賃貸してそういったエリアを施設の中に設けるといったパターンがあると思うが、このアイデアの場合は、公共が民間の床を賃貸するというアイデアなのか、それともそうではなく民間がこれを運営していくというアイデアになっているのか、その点がランニングコストという意味では、市の財政などに関係すると思うのでお聞かせいただきたい。

## 事務局

あらゆる選択肢は排除せずに検討したいと思っているが、現時点では、どちらかといえば民間で運営いただくことを前提に考えている。

## 市長

これまでのやり方だと、委員のおっしゃったようなことが多いと思う。

ところが最近は随分変わってきていて、例えば東京などでは、このインキュベーション的な施設というのは、どんどん民間が運営している。

それからJRも仙台あたりだとJRが運営をして、そして私も見て驚いたのが、大企業も本社ビルを近くに持っているにもかかわらず、あえてこういうところに人を配置して、様々な交流のもとで新しい価値を生み出そうという活動が非常に増えており、これが今後長く続くかどうかというのはひとつの議論になるかもしれないが、従来の動きと大分変わってきていると思う。

それから、駅の西口には、クリエイティブビジネスサロンというのもあるが、こちらもインキュベーション的な施設は既に満杯ですし、コワーキングスペースの方も常時人がいて、今どんどん増えてきているという状況にある。

そういう点では、従来の発想とは違って、運営の仕方を変えることによって、民間による柔軟な運営をした方がうまくいくというような面も出てきているのかなと感じている。

ぜひ、そういった実態もご覧いただけるとイメージが付きやすいかなと思っている。

## 委員

西口の方でも、そういった利用が増えているというお話があり、福島でもそういう形の芽があると思ってお聞きしたが、いろいろ施設を誘致する中で、なかなか大企業だとか大都市のような形に福島はいかないという面もあるのではないかと、やはり心配の種である。

まずそういった民間で運営するという形で花が開いていくと良いなと思う一方、なかなか床が埋まらないという中で、公共の賃貸エリアがあんまり広がらないような形での事業計画というのは、ぜひ、再開発組合の方ではお考えいただきたいという感想を持ったところである。

## 委員

すごく立派なコンセプト案を出していただけてありがたい。

建築と設備面についても出していただいたので、その面でちょっと私の意見を。

まず ZEB Ready を目指すということを挙げていただいたが、多分来年あたりから法改正になって、ZEB Ready は当たり前になってくる時代かなと思うので、ぜひ、これを目指していただきたいと思う。

また、建物について、例えば県産材、木材をふんだんに利用するとか、今は木造で耐火が可能な時代なので、木造で例えば建築業界でも話題になるような建物を目指していただけたら嬉しいと思っている。

また、第一印象として、健常者目線でしか今出ていなくて、障がい者を配慮していただいて、インクルーシブを意識して進めていただきたいと思っている。

それと、最初のページに、市民が立ち寄る場所から、通り過ぎる場所へと変わりつつあると文章があり、既に通り過ぎもしない場所になっているとされていて、自転車について検討いただきたいと意見を出させていただいたが、この辺はどうお考えになっているのかご教示いただきたい。

## 事務局

第 1 回目の検討会で、自転車のご意見もあった。

自転車で駅前にいらっしゃる方も多ことから、検討している最中であり、動線の面もあるため、駅前通りにオープンな空間をなるべくとりたいという案もあることから、その辺と自転車との絡みも汲んで検討していきたい。

## 委員

気軽に乗れる乗り物で、気軽に集まってもらえるような検討をしていただきたいと思う。

今ここに集まる交通手段でも、どう考えても車が多いかなと思っている。

東口に駐車場が増えたと言え、一昨日の日曜日にこむこむで車のイベントをやっていて、駅前の駐車場が満車状態だったので、車のその辺のことも考えなければならないと思っており、ふと思ったのが、駅東西の連絡通路を綺麗にさせていただいて、車で西口に来て、連絡通路を通過して東口でイベントを楽しんで帰りに西口のスーパーで日配品を買い物して帰るっていうのは、両方とも賑わっていて良いと思う。

## 委員長

施設を作るにあたって、いかにアクセシビリティを向上させていくかは当然の課題であり、ユニバーサルデザインの観点ももちろん当然のこととして受けとめておられると思う。何かコメントはあるか。

## 事務局

障がい者への配慮、ユニバーサルデザインについては、当然今回それを排除して検討しているわけではなくて、今後設計の中で取り入れられるものは取り入れていきたいと思っている。

## 事務局

ZEB Ready や県産材という話もあり、2025年 ZEB Ready の話も法改正になっていくと思われるので、その辺も検討の中に含めていきたい。

また、車の件について、この再開発エリアの中でも立体駐車場は計画しているものの、やはりキャパ的に集客力のある施設を作っていく訳で、その辺は今後の西口の検討も含めて車の動線なり、駐車場のあり方も同時に検討して参りたい。

## 委員長

コンベンションホール型の施設に大体の皆さんの合意は得られたが、さらに肉づけするために、どうしたら本当に魅力的になるのか、人を集められるのか、といった観点で今日この資料をまとめていただいている。

これ全部が実現できる訳ではなく、この写真だけ見ると物凄いのが実現できるように思われるかもしれないが、バッティングするものもあって同時にできないものもある。

これから整理して実現に向けて動いていかれるが、そういった方向性のために、皆さんから、全体の感想なども含めてご意見等いただきたい。

## 委員

コンベンションホール単独案の肉づけ案ということで、これまでの検討会の意見やタウンミーティング等のご意見も反映されたコンセプト案ということで、非常に希望を持てる施設になると感じた。

コンベンションホールという用途に限られるイメージもあるが、この案では様々な用途やシーンに対応できるもっとマルチな施設ということなので、可能性と自由度の高さに良いイメージを持った。

この案の施設を中心に、他の施設や広場、通り等ともマルチな組み合わせができ、実際に施設が完成した時に、またその施設を使用しながら、地元からも市外の方々からもいろいろと活用のアイデアが湧いてくるような気がする。

当初の計画を分棟化してダウンサイジングするというのに、ネガティブなイメージを持ったが、このコンセプト案となれば、逆に楽しみなポジティブな気持ちになっている。

コンセプト案の中で、中合百貨店閉店の記述は特に必要ないかと思う。

## 委員長

最初劇場型の単独ホールという案がA案としてあり、その場合は逆に収益性は確実に見込まれるが、しかし、全国のファンが集まってくるものの、地元にどういう影響があるのか、まちづくりにどういう影響があるのかがまだ見えてこなかった。

それが今回こういった平土間型になって、コンベンションホール型になった。

そして、タウンミーティングで多く出された意見であるが、このようなコンセプト、シーンを入れ、具体化に向けて動き出すことによって、実際、より地元の人を巻き込んで、地元の人が加われば若者も

加わる。

若者を巻き込んで大きく膨らむ活動になれば、よりインクルーシブなものになると思う。

#### 委員

大変素晴らしい案を出していただきまして、だんだんイメージがはっきりしてきた。

生み出すという意味の卵のイメージで、少しワクワク感が出てきた。

これを全部実現するために、大屋根広場とか、水平の折れ戸とか、素敵な空間ができるような感じに思うが、これは、予算的には大丈夫なのか。

また、この先どんどん時間が過ぎてしまうと、この予算ではできませんでしたということなると思う。その辺が後から残念だとならないような計画にしていただければと思う。

#### 市長

予算的にはまだ十分な試算はしておらず、元々がハイブリッド型で非常に大きな額になっているところをダウンサイジングすると言ってきた訳である。

ある意味、公共の部分に関しては、今まで本当にキツキツでプラスアルファの投資が全くできないような状態から、ダウンサイジングすることでそういったこともやれる余地が生まれてきたと思っている。その点では、野放図に予算を増やす訳にはいかないが、やはり最初に言われたような、中途半端で魅力がないというものにはならないように、一定の付加価値的なものも付けて魅力的にしたいと思う。そこは予算的にも何とか間に合っただけでやれるようにしていきたいと思っている。金額的な面は、改めて整理をして、お出しをしなければいけないと思っている。

#### 委員

資料を見る限り、これだけ汎用性が高く、イベントを行う際に受け皿になる何でもできる施設があれば素晴らしいと思った。コンセプトを含めて非常に分かりやすさがある。これが一番大事だと考えている。

ただ実際に利用するときは、繁忙期と閑散期で細かい問題がでてくる面もあるかと思う。コンベンションホールとして見ると非常に汎用性が高く使用しやすいと思った。我々も団体として外部から人を呼ぶ際に使い勝手や駅からの近さは重要なポイントになるので、どちらも兼ね備えているのは嬉しい。

集客に関しては、イベントの内容が一番重要になると思うが、東口全体として考えたときに、参考資料3にあったような、日常的に人を呼び込む集客力が大事になる、この言葉の通り、これは公共の方ではなくて民間の方に非常に期待している部分があるので、そちらもあわせてよろしくお願ひしたい。

#### 委員

まず、このコンセプト案を見て、率直な感想としてすごくワクワクした。

実際、私自身友人と話していても、「福島って何もないよね」とかが口癖みたいになってきている状況かなと思っているので、いろいろな用途があってこういう未来が実現できるかもしれないと考えただけでワクワクした。このような日常からイベント利用までいろんなシーンに対応できて、常に人がいて常に人の顔が見えるような、まちになってくれたら私も嬉しいなと感じている。

## 委員

大分コンベンションホールの方向に傾いているということで半分納得し、これでは舞台の装置も何もないようなホールになってしまったということにちょっと残念に思った。ある程度しっかりしたホールでないと、収益性もあることははばかれるのではないかと思ったが、皆さんが集まって、わいわいと顔の見えるというところで納得している。西口にある学習センターの多目的ホールが新しくなっただけでも子供たちがわいわい集まってくる。私は日常的なことを見ているので、こういうホールができて、駅から自由に往来できることは非常に感動している。

また、これについての予算面で、後から福島市民が大きな税金に苦しむようなことになれば大変だと思っている。青森や秋田など、いろいろコンパクトにする試みをしたところは、今に到達するまでにいろんな紆余曲折があって現在になっているというような記事も読ませていただいた。それで福島も公共交通機関がしっかりしないと、ここに集まる方たちも限られてくるのではないか。その交通の面も十分に考慮していただきたい。だんだんバスの本数も減らされるというような形、また私は西に住んでおりますので、東西の道路の何か基本的な展望が見えないのかなといつも危惧しているので、その辺もよろしくをお願いしたい。

## 委員長

今おっしゃったように、舞台施設がちゃんと見えてきていないところで、確かにA案と比べたら大分後退したように見えるかもしれないが、この辺りは今日の議論の中で逆に要求してもいいのではないかなと思う。というのは、この中で結構プロジェクションマッピングを使った壁面であるとか、新たな背景・舞台装置を提案されており、また引出し式の収納型座席というものも考えておられるということであれば、特にネックとなるのが音響なのである一定範囲の音響をどう確保するか。

## 委員

装置も音響もないような舞台では、ちょっとやりづらい。

## 委員長

A案でなくB案でいこうという段階でそれは一応こういう形にはなった。ただ最低限の一定範囲の音響を何とか確保してもらえないかというような言い方、提案の仕方はあるのではないかなと思う。

## 委員

そうすれば多目的ホールと同じだなという形にとらえた。

## 委員長

またそこまで行くかどうか、ちょっと技術的にはまだそこは難しいが、ある一定範囲は、そういうようなことは。

## 委員

音響のことは、残念だなと思った。

## 委員長

まだ、これから検討の余地があるのではないかと考えている。

## 委員

いろいろ市民の意見や声を受けつつ、様々なシーンを考えていただいて、非常にワクワク感というか、広がりのようなアイデアだなというふうに感じた。

よく見れば様々なシーンに対応していいのではないかなという側面もあるし、ちょっと検討しなくてはいけない部分があるのかなと思うのは、やはりいろいろなことを詰め込み過ぎている部分とか、そこにどのような課題があるのかというのが感想である。

絵的にはいろいろな配置があっただけいいが、それが重層的なところで、どこまで実現できるのかというところがあるのかと。先ほどインクルーシブとか様々な多様性という話もあったが、日常での市民の使い勝手とか、それからどの程度のターゲット、子育て世代であったり子供たちが、憩う場であったりするとその子供たちが休日の賑わっている場面でどのような形になるのか。

繁忙期と閑散期という話もあった。やはり、日常や祝日イベント時の人の流れとか、そういったバランス差というのもある。

あとは実際の空間づくりとして、最後のページに記載の絵的には重層的に見えたとして、階段状の作りが見やすくするという広がりもありながら、果たしてこの周辺のまちとの接点やつながり、ここだけを見るとこれでいいかもしれないが、広がっていくとどういった人の流れやつながりがあるのかなど、バランスよく表現できればいいのかなという感じがした。

民間主導という話もあったが、やはり最近いろいろなイベントホールとか、駅周辺で言えば、首都圏であれば中央線の立川駅北側にて民間主導でイベントホールを作りにぎわいを創出しているということもあるし、地方圏であれば新潟駅では駅周辺一帯で整備が進められている事例もある。やはり民間主導で様々なイベントを検討して進めているという流れもあるので、民間の取組やまちづくりとも一体的な活動に広げていければいいのかなというふうに感じる。

## 委員長

先ほど私からもお話したように、これら全てが実現できるものではもちろんなくて、それを取捨選択しながらどう整理して実現に向けていくのかというのは、これからの検討すべき次のステップのテーマかというふうに思う。

しかし、先ほどから出ているように、特に全体の予算管理という点はとても大事な観点であるため、しっかりと市の方にやっていただくということをお願いしたい。

## 委員

参考資料1のタウンミーティングと出前講座での意見の抜粋の中で、イベントやコンサートが開催できると載っていた。

市のホームページでまちづくりミーティングの意見が見られるが、その中には、このイベントコンサートが開催できるという意見がなくて、逆にコンベンションホールや劇場は本当に必要なのか、疑問や反対の意見の方が書いてあるが、イベントコンサートが開催できるという意見は、出前講座とかの方で出た意見なのか。



## 事務局

タウンミーティングを2月と3月に2回開催しまして、その中で、様々なご意見を頂戴したところである。あくまで一部抜粋というような形になっている。全体の意見の中で、こういう意見がありましたという点は、確認した上で改めて皆様にお知らせさせていただければと思うがよろしいでしょうか。

## 委員

できれば、いろんな意見を見たい。ホームページに載っているのは抜粋という形なのか。

## 事務局

ホームページは、量の関係からどうしても参加者全員のご意見を掲載できない。グループごとに発表していただいたご意見を基本的に載せている。

## 委員

できれば他の意見も見たいので、ぜひ支障がなければ教えていただきたい。

## 市長

意見発表されていない方がいらっしゃいますが、先程いろいろお話があったので、この辺で少しコメントさせていただければと思う。

委員から、ZEB Ready からもっとゼロカーボンの進化した形といったようなお話もあり、こういうオープンな施設になればなるほどそれは難しくなるわけであるが、できる限りそれに対応するつもり。木を使うということに関しては、もともとのホールも「花のホール」といって、木をふんだんに使う構想であった。西口の大庇にもあるように、私自身はできる限り木を使いたいと思っている。

ただ、今回ホールでプロジェクションマッピングとか何かをするとすると、そこの関係でどこまで使えるかといった課題が出てくると思う。

外の大屋根の部分は、木を使うと明るくなって、また映えると思うので、その点ではできる限り使っていきたいと思っている。

それから、障がい者を排除した健常者の目線ではないかというお話があった。今回は、どうしたら皆さんが希望を持ってもらえるかということで、全てを出すというよりは一番コアの部分をお出ししている。その点では、一番コアというのはまさにコンセプトで、にぎわい・文化・つながりが生まれるというコンセプトをメインに構成したので、その辺は言えなかったのかなと思う。ただどちらにしても、多様な交流ということは、ある意味全てインクルーシブである。当然、外国の話も入れながら。平土間という点からすれば、特に移動という面で見ると、従来の3、4階に比べたら、はるかにバリアフリーでユニバーサルデザインの構造になり得る。

それから、我々もイベントなどにおいても様々なものが可能ですので、当然のことながら障がい者の皆さんがやるようなものもそうだし、一緒になるものもそうで、そのところは、多様性の尊重というのは、福島市の理念5つのうちの1つである。そういった点は、ベースにあるという前提で、排除ではなく、しっかり備わっているのだということをご理解いただきたいと思う。

それから移動手段の話である。当然まちなかでやるには非常に重要なポイントになる。福島は車社会なので、それに対応したものにしなければいけない。ただ、それを余りにも肯定し過ぎてしまうと、む

しろこれから未来社会に対する遅れが生じてしまう可能性がある。現在市では、できる限り車を中心部まで持ってこないように、パークアンドライドなども実施している。なかなかそういうことをやっても、こむこむなどを使われる方はまちなかまで来て駐車場に入れてしまう。やはりこの辺は今後も公共交通を使うとか、あるいはこういったパークアンドライドを使うということで、やはり我々自身も行動変容を促していかないと福島の社会が遅れた社会になってしまう恐れがある。

今現在、パークアンドライド駐車場とまちなかの間は路線バスを使っているが、今後は、私としては無人の自動運転バスなんかを使いたいと思っている。今後はそういったものが社会として当たり前になってくるので、そういう未来を先取りするような形で公共交通の問題も考えていきたいと思っている。

それから音響の話があった。芸術性の高い音楽とかは少し困難になると思うが、通常のコンサート、例えば、閉店されたサンパレスさんとかで行われるようなコンサートのレベルのものや、我々が知っているようなポップスなど、そういった面は十分に大丈夫で市民の皆さんがお使いになる音響は十分に確保できるという前提である。その点では、一般的な物使いとしてはご心配なくというふうに思っている。

それから、いかに繁忙期と閑散期をマネジメントするかというのは、単にここだけの問題ではなく、市民の皆さんの使い方というか行動変容にも関わってくるもの。実は福島市の実態を見ると余りにも秋ばかりイベントをやっていて、春のゴールデンウィークは閑散としていた。ですから今回、春先にやるイベントに関して補助率を上乗せして誘導しているが、なかなか民間がまだ対応できていない。いろいろ聞くと結局、失礼だが役所以上に役所らしい論理。例えばそれぞれの団体があると、通常5月末頃総会を開いて年度間の事業計画を決めている。ところが、その事業計画でいつも4月からさかのぼって計画するので、結局イベントができるのは秋しかないという実態になっている。私自身そこは皆さんで見直しをして、春先でもできるようにしてくださいと話をしている。今後は、単に現状がこうだから何とかしたいというのではなくて、現状が何でそうなっているのかという形で踏み込んで分析して、そういう現状を変える取り組みをしながら、全体的に良い利用とかまちづくりに持っていければというふうに思っている。

このコンベンションみたいなところであれば、十分に可能なので、今後はまた計画をやり直していただいて、むしろ空いているときに開いていただくことも訴えていけば、いろいろな利用上の課題も解決していけるのではないかなと思っている。

## 委員

コンセプト案、皆さんと同じで非常に良くなってきているなと思って、煮詰まってきているなと思っている。

あとは、個人的に思うのは、デザインをよくしていただきたいと思っている。まちづくりをしていると、やはり昔福島には日銀とかいい建物があり今は残っていない。だからそれがあつたらどんなによかったかなと思っているぐらいなので、やはり難しいかもしれないが世界に誇れるような建物デザインになったら嬉しいなと思う。

あとは、人口減少とか財政赤字とかのことを考えると、やはり市民の要望・内需を満たすだけでなく、外から人を呼べるような仕掛けも今後煮詰まっていければ更に良くなるのかなと思っている。

## 委員

考えとコンセプトを聞かせていただいて、すごく楽しい駅前になるのかなと思った。

祭りとかイベントとかに関わらせていただいている、今、市長の意見で、確かに秋のイベントがすごく多くて、その他商工会議所青年部でも秋のイベントが主になってしまって、その他の市民が参加するイベントはなかなかできていなかったなというふうに思う。

やはり今回のこのコンベンションホール、まちなかにつながる空間ができれば、冬に開催するイベントというのもこれからできていくのかなというふうに思って、そこは希望が広がるなとすごく思った。

外から来た方が駅に降りてこちらのコンベンションホールに来ると福島のこと分かって、そこを起点に福島の魅力というのが分かって、そこからまた福島市内をまたそこに行きたいなって思えるような仕掛けというのがあればいいかなと思う。

お祭りのことばかりで申し訳ないが、福島わらじまつりの他にも、市内には大小様々なお祭りがあると思うので、そういうお祭りが分かるような大小のお祭りに関わっている方々が、コンベンションホールでこういう祭りがあると表現できるような空間というのもあったらいいかなと思う。

## 委員長

先ほど委員からご発言あった点に関して私もそれは賛成である。少し今、逆にシーンという形で具体的なコンテンツの問題が見えなくなっている。どこまで骨格となるような収益に期待を持てるイベントが企画できるのか、あるいは骨格となるようなもう少し地元発信、主体型の学会であるとか、そういった県レベル、県スケールのもので企画できるかとか、それからあまり収益性はないかもしれないけれど、市民が主体となって市民相互に交流が広がるようなイベントであるとか考えられる。さらに、私がもう1つ期待したいのは、ここに広場型の空間ができるときそういったものを生かして、即興型で人が集まって何か物事が起きるといったような集め方というのは、みんなスマホを持っているので今後期待できるのではないかな。

そういったことで、より多様で新しい活動が生まれるような場というものを作っていただきたいが、その割合をどうするか、どう整理するか、今日のシーンもそうだが、どこまでを採用してどこまでが実現できないか、そういった整理の過程が今後重要になってくるかと思う。そういった課題が残されている。

それからデザインという観点では、今日は仕切りが大事だという話があり、確かにそれで、仕切り3ヶ所に分割できるところがミソで、その仕切りをどうデザインするかというのは、この施設のイメージに大きく関わってくる。もう1つは、入口部分。表側から見たときに、オープンになっているときにどう見えるのか、それからクローズになったときにどう見えるのかといったところは、やはりまち並みとまちとのつながりという観点で重要なデザインのポイントではなからうかというところで、十分今後検討していただきたい。

それから先ほど言ったように、全体と今回3パーツに分ける案は出ているが、それらに対し全体を生かしながらももう少し混合、自由な形でレイアウトしたような使い方、そういったものの可能性等も検討していただきたい。その時に、仮設舞台といったものの作り方、設置の仕方等もお考えいただけたらと思う。そこにある程度の音響は確保されているというのは前提かと思う。

その辺りのデザインも、もう少し具体化に向けての課題かなと思う。

しかし、そういった細かいことよりも、今回こういったコンベンション型のホールを生かすために、新たなつながりを生む「エッグ」というものをコンセプトとしたところが1つのポイントかと思う。それは、資源はいっぱいある、皆さんもニーズはある程度ある。何かを見たい、何かを体験したい、新し

いものに触れたいというもの、あるいはお祭りもあちこちにあるが、それらをもとに人が集まるようなものに企画していくところにやはり知恵が必要なわけである。デザインの力、広い意味でのデザインの力・創造力というのが必要で、それがここになければいけない。それは外からの力を借りるのもあるかもしれないけれども、それを地元で、あるいは市役所も協力してかもしれないが、官民一体となってかもしれないが、そういった資源を生かしていく能力、創造力というものをこれからどう育てていくのかという観点で、先ほどインキュベーターのお話もあり、そういったものを積極的に単なるインキュベーターではなくて、この施設をフルに生かすような方向に、同じ方向を向いたインキュベーターができて、それがお互い呼応しあって発展させていくことができれば何よりかというふうに思う。

そういった今回出されたコンセプトは魅力的であるが、それを更に具体化する上ではまだまだもうひと踏ん張りご検討いただけたらというふうに思う。

それからまちづくりという観点では、これは後の話になるが、人が集まってくるというのが大前提であって、ここで議論したことではあるが、それ以外に、主催者側で今言った企画、コーディネート、デザインなど、そういった周辺に発生するいろいろなまちとのつながりを大切にしていただけたらと思う。単にイベントがあってお客さんが来るだけではなくて、イベントがあってまちにつながりをつくる能力が高まっていく、知恵が蓄えられていく。そしてこのまち自体がより情報発信力を高めていくといったシナリオをまちづくりの1つのサイクルとして考えていただきたいと思う。

もう1つ、人が寄るというものもある。立ち寄るということでこれは既にこの中に書かれているが、先ほど言ったように即興型で集まるということもあり、まちに来た人がちょっと寄っていくということもある。そこに寄ることによって今度は周辺の集落等ともつながりが生まれていくといったやり方もあるかもしれない。そういったことは、全体的な観光開発、特にインバウンドが最近盛んになっており、そういう今後の観光開発の文脈の中で、そういった立ち寄り型、立ち寄って輪を広げていくといったことも考えながら、今後の企画等々に反映していただけたらと思っている。

他に皆さんから何かご意見等ありますでしょうか。もし無いようであれば、ここで東口再開発のコンセプトとして今日出されましたイメージ、それからコンベンションホール単独の場合の肉づけ案等について、概ねこういったような方向でよろしいでしょうか。ご異議等ある方はぜひ今ご意見いただけたらと思う。

では、概ね皆さん賛成ということでよろしいでしょうか。概ね賛成という方は挙手いただけますでしょうか。(参加委員11名全員が挙手)

それでは、皆さんから賛同いただいたということで、この会はまだ続くのですが、中間的な取りまとめを提言という形でまとめていきたいと思っている。その案はまた後日諮らせていただきたいと思う。

以上であります。皆さんから付け加えるべきことあれば。

無ければ、本日の議事は以上。進行を事務局にお返す。

## ○検討会締めあいさつ

市長

ご議論をいただき感謝。今、委員長に総括をしていただいたところである。

今回はコンベンション単独案でいけるかどうかということをご皆さんと確認し、議論を深めていただくためにこのコンセプトも含めた案を出させていただいた。それには、概ね賛成という形で全員受けとめていただいたというふうに思っている。

今後、中間的な取りまとめをしていただけるということなので、改めてそれを受けとめさせていただいて、その上で市としての対応を検討していきたいと思っている。

それから、今後の流れについてご説明したいと思う。やはり検討会をベースに我々検討するといっても、今日、本当に多くの皆さんが傍聴にもいらしている通り、非常に市民の関心が高い。議会もそうである。その点では今日申し上げたように、今日の案は市としての方針ではなく、検討会ではこういった議論をされているということを近々市議会を開いていただいて、全員協議会で説明をしてご意見をいただきたいと思っている。

また今週の 27 日には、若い世代とのワークショップも予定している。市としては、今後いただく提言に、市議会や市民の皆さんの意見を踏まえて、市としての方針を策定して、前回申し上げた通り、一つの節目である 6 月議会までに、5 月中には市としての方針を取りまとめて議会にお諮りしたいと思っている。

また、市としての方針を委員の皆様にもお知らせさせていただきたいと思っているので、そういった段取りをご理解いただきたい。